

学修ポートフォリオの導入と検証

三宅 元子・白井 靖敏

Validation of Introductory Learning Portfolio

Motoko MIYAKE and Yasutoshi SHIRAI

1. 目的

近年、大学へ進学する学生の多様化が進んでおり、必ずしも学習意欲が高く目的意識の明確な学生ばかりとは限らない¹⁾。学生はAO入試、推薦入試などの選抜方法による多面的な評価尺度で合格していることから、入学までに身に付けておくべき知識が十分とはいえない者もみられる。N大学（以下、本学）においても、2014年に実施した学修行動調査²⁾や学生の予習・復習等の勉強時間に関する調査³⁾結果から、予習・復習の習慣がなく、その方法がわからないという記述がみられた。そこでは、学生自身が予習と復習を含めて学修の達成状況を点検し振り返りをするという自律的、能動的な学修習慣を身に付ける必要がある、との課題が明らかとなった。

一方、2012年8月の中央教育審議会答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」⁴⁾において、学生の主体的な学びを確立し、学士課程教育の質を充実させる諸方策の始点として、学生の十分な質を伴った主体的な学修時間の実質的増加・確保が必要であると示された。具体的には、学生が主体的に事前の準備、授業の受講、事後の展開という学修の過程に一定時間をかけて取り組むことの意義、学修の量と質の両立のためには質を伴った学修時間であることが必要であると記されている。そして、大学で速やかに取り組むことが求められる課題の一つに、学修時間の把握といった学修行動調査やアセスメント・テスト（学修到達度調査など）、ルーブリック、学修ポートフォリオなどの導入が示されている。さらに、2017年度までの「大学改革実行プラン」⁵⁾の中で、このような教育の質的転換に向けた改革方策の実現に向けた取組を大学に求めている。

そこで、本学の課題である「学生に自律的、能動的に学修する習慣を身に付けさせる」ことを目標に、学生の学修履歴の記録と自己管理のための仕組みを整備する方策として学修ポートフォリオを導入することにした。

本稿では、2016年度の入学生からA学部2学科で実施した学修ポートフォリオの記入状況、事前の準備、授業の受講、事後の展開（以下、予習、授業、復習）に関するアンケート調査を行い予習と復習の達成度や学修に対する意識を分析することで、学生の学修に関する問題点を明らかにし、今後の課題を整理することとする。

2. 方法

2.1 学修ポートフォリオの作成

学修ポートフォリオの内容や実施方法は、導入する前年度（2015年度）にB学科とC学科の合同ファカルティ・ディベロップメント（FD）の席上で議論された。学生に予習と復習をきちんとさせることが重要であることから、学習ノートではなく学習の記録として短時間で記入できる様式とした。記入シートの内容は、予習、授業、復習という学修過程の流れがスムーズに行えるように①予習内容と時間、②授業内容、③復習内容と時間、授業の振り返りができるように④授業中に質問した内容、⑤授業の理解度の合計5項目を設けた。1回の授業ごとに記入するページが14回分、15回目の授業終了時には全体の学修を振り返って記入するページの合計15回分が綴られた小冊子とした（参考資料1）。

2.2 学修ポートフォリオの実施方法

実施上の注意点では、大学情報システム研究委員会の「学修ポートフォリオに対する理解の促進に向けて（中間まとめ）」⁶⁾に示されている学修ポートフォリオの導入にあたり留意すべき点を参考にし、次のことを申し合わせた。

授業担当教員は、学修ポートフォリオの記録状況について一定の割合で成績評価に組み入れることをシラバスに明記する。15回の授業のうち少なくとも一度は回収し、学生の学習状況や活用状況を把握して評価する。成績評価における学修ポートフォリオの占める割合は、試験やレポートなどと同等に扱うものとし、各教員の判断に委ねる。

学生は、1年間に選択した卒業要件に関わる講義の科目数分の学修ポートフォリオをファイルに綴り保管する。

2.3 学修ポートフォリオの効果検証の方法

学生が提出した前期分（4月～9月）の学修ポートフォリオのファイルとアンケート調査により行う。

2.3.1 調査対象者および調査時期

調査対象者（以下、学生）は、本学A学部B学科およびC学科の1年生89名（女性）である。調査用紙は記名式で択一式回答と記述式による自由回答である。調査時期は2015年7月であり、授業終了直前の15分程度で行われた。なお、調査は本学の個人情報取得許可の承認を得て実施された。

2.3.2 調査の内容

ファイルは、その記入状況について本学教員の3名により確認された。

アンケート調査は、(I)学修ポートフォリオの記入状況、(II)予習と復習の状況、(III)学修に対する意識、(IV)学修ポートフォリオの記入に対する意識、(V)学修ポートフォリオに関する自由記述の5領域である（参考資料2）。

(I)学修ポートフォリオの記入状況は4項目（科目数、記入時期、記入場所、記入時間）であり、(II)予習と復習の状況は8項目（予習時間、復習時間、予習場所、復習場所、予習形態、復習形態、予習媒体、復習媒体）である。(III)学修に対する意識は、高橋ら⁷⁾の作成した調査項目を参考に18項目（学習意欲が向上した他17項目）を作成し、(IV)学修ポートフォリオの記入に対する意識は4項目（負担を感じた、難しかった、意義がある、自分の学習成果として就職に役立てたい）とした。(V)学修ポートフォリオに関する自由記述は2項目（よかった点、

負担感や難しかったところおよび改善点)である。詳細は参考資料2に示す。

2.3.2 分析対象者と統計処理

分析対象者は、ファイルを提出し且つアンケート用紙の回答に欠損値のなかった81名である。統計処理はすべてIBM SPSS22.0 STATISTICSを使用した。(V)学修ポートフォリオに関する自由記述を除いた(I)～(IV)は単純集計及びクロス集計をし、検定には χ^2 とPearsonの相関係数を用いた。なお、相関の基準値はいずれも森・吉田⁸⁾に従い、 $0.2 < |r| \leq 0.4$ を弱い相関あり、 $0.4 < |r| \leq 0.7$ を比較的強い相関あり、 $0.7 < |r| \leq 1.0$ を強い相関ありとした。

3. 結果

3.1 学修ポートフォリオの記入状況

ファイルは、その記入内容により全項目にわたり十分記入されている(以下、上位群)、おおむね記入されている(以下、中位群)、項目に空欄があるなどの不十分な記入である(以下、下位群)の3段階に分類された。分類は、学部長、教育学を専門とする教員、筆者の3人で協議した。その内訳は、上位群が25.8%(23人)、中位群が41.6%(37人)、下位群が23.6%(21人)であった。

3.2 アンケート調査結果

まず、(I)学修ポートフォリオの記入状況、(II)予習と復習の状況について概観する。

(I)学修ポートフォリオの記入状況では、学生一人あたりの平均記入冊数は8.1冊であった(表省略)。記入時期は、「その日のうちに」が最も多く32.1%であり、「授業直後」とあわせて45.6%であり、約半数がその日のうちに記入していた(表1)。記入場所は、「大学」45.7%、「大学と自宅・アパート・寮」35.8%、「自宅・アパート・寮」17.3%の順であり、80%以上が大学であった(表2)。1日あたりの平均的な記入時間は、「5～10分未満」が33.3%、「10～15分未満」が25.9%の順であり、80%以上が20分かからずに記入を終えていた(表3)。

表1. 学修ポートフォリオの記入時期

		N=81						
		授業直後	その日のうちに	次の日～講義の前まで	講義の前日	講義の直前	その他	合計
人数		11	26	16	8	9	11	81
%		13.6	32.1	19.8	9.9	11.1	13.6	100

表2. 学修ポートフォリオの記入場所

		N=81				
		大学	大学と自宅・アパート・寮	自宅・アパート・寮	その他	合計
人数		37	29	14	1	81
%		45.7	35.8	17.3	1.2	100

表3. 学修ポートフォリオの平均的な記入時間

		N=81							
		5分未満	5～10分未満	10～15分未満	15～20分未満	20～25分未満	25～30分未満	30分以上	合計
人数		10	27	21	8	6	4	5	81
%		12.3	33.3	25.9	9.9	7.4	4.9	6.2	100

(Ⅱ) 予習と復習の状況では、1日の平均的な予習と復習時間はいずれも60分未満が80%以上であった(表4)。また、予習と復習時間は正の強い相関($r=0.846, p<0.01$)を示したことから、予習(あるいは復習)時間が長い者は復習(あるいは予習)時間も長いことが確認された。おもな予習と復習場所はいずれも「自宅・アパート・寮」が約50%であり、「大学」と「大学と自宅・アパート・寮の半々」を含むいわゆる大学で予習と復習をする学生とに二分された(表5)。予習と復習のおもな形態は、いずれも「個人」が90%以上であり、ほとんどの学生が一人で学習する実状であった(表6)。予習と復習に用いた媒体は、そのほとんどが「教科書・ノート」であり、「図書館の本」や「パソコンや携帯・スマートフォン」は10%に達しなかった(表7)。

次に、学修ポートフォリオの記入状況(上位群、中位群、下位群)別の予習と復習時間を確認する(図1)。30分未満は予習と復習時間のどちらも下位群、中位群、上位群の順であり、それとは逆に30~60分、60~90分未満と時間が長くなるに従って上位群、中位群、下位群の順となった。学修ポートフォリオの取組と予習と復習時間とは有意差がみられなかったため関連があるとまではいえないが、何らかの影響があるのではないかと推察された。

学修に対する意識(図1)では、非常に思うとやや思うをあわせて50%を超えたのは、「授業の振り返りができた」(66.3%)の1項目であった。次いで「授業内容への理解が深まった」

表4. 予習と復習の1日あたりの平均的な時間

		N=81				合計
		30分未満	30~60分 未満	60~90分 未満	その他	
予習	人数	40	35	5	1	81
	%	49.4	43.2	6.2	1.2	100
復習	人数	30	41	9	1	81
	%	37.0	50.6	11.1	1.2	100

表5. 予習と復習のおもな場所

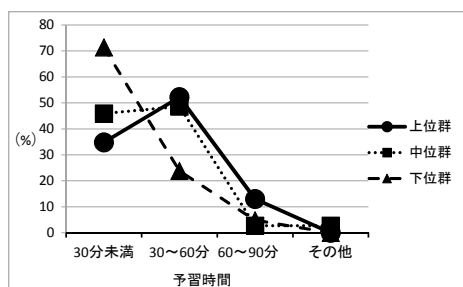
		N=81				合計
		大学と自 宅・ア パート・ 寮の半々	自宅・ア パート・ 寮	その他		
予習	人数	19	27	34	1	81
	%	23.5	33.3	42.0	1.2	100
復習	人数	16	22	42	1	81
	%	19.8	27.2	51.9	1.2	100

表6. 予習と復習のおもな形態

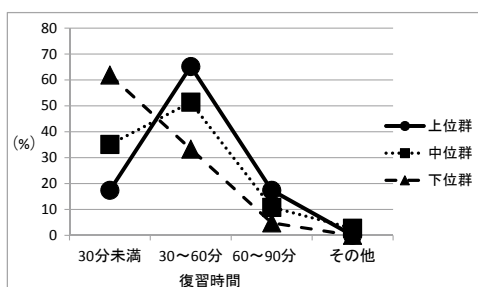
		N=81		
		個人	友人と共同	合計
予習	人数	78	3	81
	%	96.3	3.7	100
復習	人数	75	6	81
	%	92.6	7.4	100

表7. 予習と復習に用いたおもな媒体

		N=81 (複数回答)				合計
		教科書 ノート	図書館の 本	パソコン や携帯・ スマホ	その他	
予習	人数	75	3	8	0	86
	%	87.2	3.4	9.3	0	100
復習	人数	81	4	3	1	89
	%	91.0	4.5	3.4	1.1	100



$\chi^2=9.40, n. s.$



$\chi^2=10.92, n. s.$

図1. 学修ポートフォリオの記入状況別による予習と復習の1日の平均的な時間

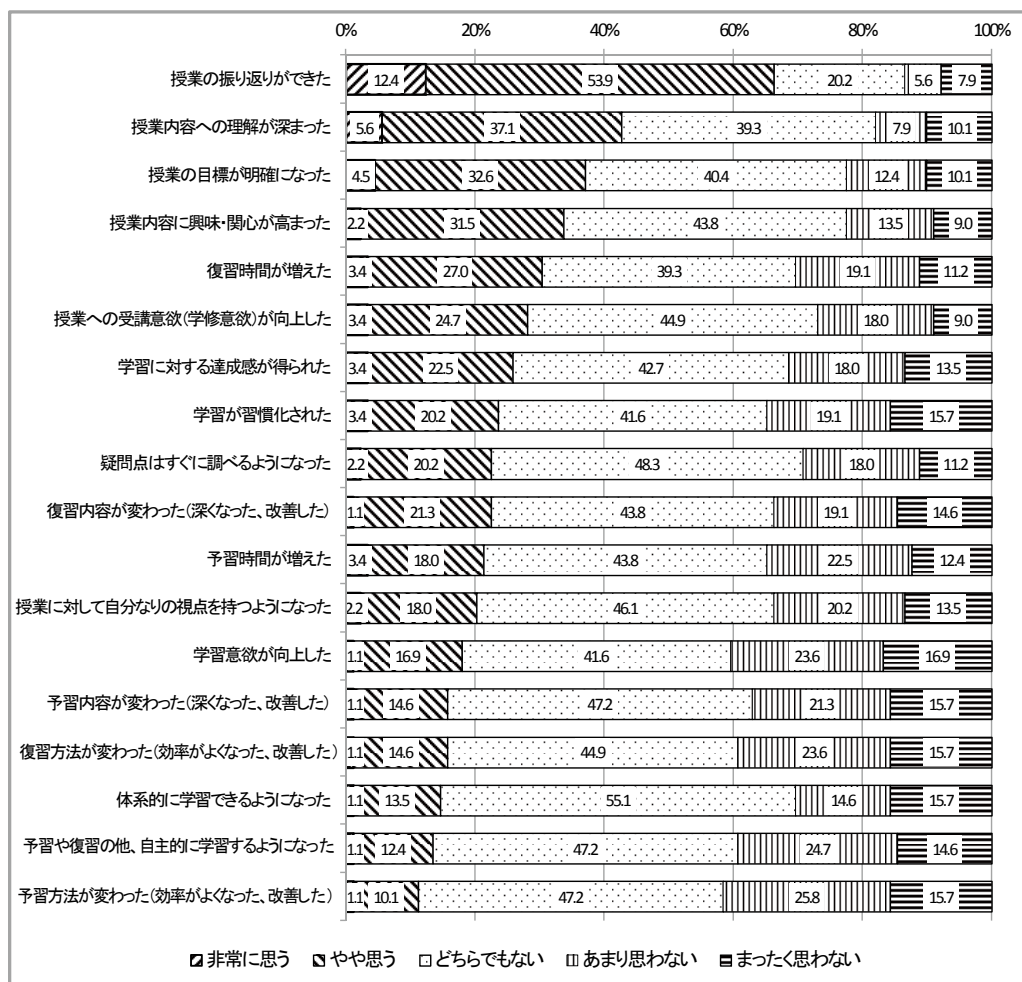


図2. 学修に対する意識

(42.7%)、「授業の目標が明確になった」(37.1%)の順である。一方、最も意識の低かった項目は、「予習方法が変わった」(11.2%)であり、「予習や復習の他、自主的に学習するようになった」(13.5%)や「体系的に学習できるようになった」(14.6%)も低かった。授業に対する意識に変容はみられたが、予習と復習を積極的に取り組む姿勢や学修の質を高める行動変容までには至らなかった。

(Ⅲ)学修に対する意識(18項目)も、学修ポートフォリオの取組状況との関連が考えられたため、その上位群、中位群、下位群別での差異を確認した。その結果「授業内容への理解が深まった」($\chi^2 = 20.88, p < 0.05$)、「授業に対して自分なりの視点を持つようになった」($\chi^2 = 16.15, p < 0.05$)、「学修に対する達成感が得られた」($\chi^2 = 15.85, p < 0.05$)の3項目に有意差がみられた(表7)。「授業内容への理解が深まった」は、上位群と中位群は同じ傾向であり「やや思う」が下位群よりも高かった(図3)。「授業に対して自分なりの視点を持つようになった」は、上位群が「やや思う」で中位群、下位群よりも高かった(図4)。「学修に対する達成感が得られた」は、「やや思う」が上位群、中位群、下位群の順に分散し、「まったく思わない」では逆に下

表8. 学修ポートフォリオの記入状況別による学修に対する意識

(%)

項目	群	まったく思わない	あまり思わない	どちらでもない	やや思う	非常に思う	合計	χ^2
1 学習意欲が向上した	上位群	4.3	17.4	47.8	30.4	0.0	100	11.55
	中位群	13.5	24.3	40.5	18.9	2.7	100	
	下位群	23.8	33.3	42.9	0.0	0.0	100	
	合計	13.6	24.7	43.2	17.3	1.2	100	
	上位群	4.3	4.3	56.5	26.1	8.7	100	
2 予習時間が増えた	中位群	8.1	32.4	43.2	16.2	0.0	100	15.03
	下位群	23.8	23.8	38.1	9.5	4.8	100	
	合計	11.1	22.2	45.7	17.3	3.7	100	
	上位群	4.3	4.3	43.5	39.1	8.7	100	
	中位群	8.1	24.3	45.9	21.6	0.0	100	
3 復習時間が増えた	下位群	19.0	23.8	28.6	23.8	4.8	100	11.85
	合計	9.9	18.5	40.7	27.2	3.7	100	
	上位群	0.0	26.1	52.2	21.7	0.0	100	
	中位群	13.5	27.0	54.1	5.4	0.0	100	
	下位群	28.6	23.8	38.1	9.5	0.0	100	
4 予習方法が変わった(効率がよくなった、改善した)	合計	13.6	25.9	49.4	11.1	0.0	100	10.86
	上位群	0.0	13.0	56.5	30.4	0.0	100	
	中位群	13.5	27.0	48.6	10.8	0.0	100	
	下位群	28.6	19.0	42.9	9.5	0.0	100	
	合計	13.6	21.0	49.4	16.0	0.0	100	
5 予習内容が変わった(深くなった、改善した)	上位群	0.0	21.7	52.2	26.1	0.0	100	12.55
	中位群	13.5	24.3	51.4	10.8	0.0	100	
	下位群	28.6	23.8	33.3	14.3	0.0	100	
	合計	13.6	23.5	46.9	16.0	0.0	100	
	上位群	0.0	13.0	52.2	34.8	0.0	100	
6 復習方法が変わった(効率がよくなった、改善した)	中位群	13.5	21.6	43.2	21.6	0.0	100	9.87
	下位群	28.6	23.8	38.1	14.3	0.0	100	
	合計	13.6	19.8	44.4	23.5	0.0	100	
	上位群	0.0	8.7	52.2	39.1	0.0	100	
	中位群	8.1	10.8	43.2	35.1	2.7	100	
7 復習内容が変わった(深くなった、改善した)	下位群	23.8	23.8	38.1	14.3	0.0	100	8.46
	合計	12.3	19.8	44.4	23.5	0.0	100	
	上位群	0.0	8.7	52.2	39.1	0.0	100	
	中位群	8.1	10.8	43.2	35.1	2.7	100	
	下位群	9.5	19.0	42.9	28.6	0.0	100	
8 授業内容に興味・関心が高まった	合計	6.2	12.3	45.7	34.6	1.2	100	4.96
	上位群	0.0	4.3	60.9	30.4	4.3	100	
	中位群	8.1	24.3	37.8	27.0	2.7	100	
	下位群	9.5	28.6	42.9	19.0	0.0	100	
	合計	6.2	19.8	45.7	25.9	2.5	100	
9 授業への受講意欲(学修意欲)が向上した	上位群	0.0	8.7	43.5	39.1	8.7	100	9.14
	中位群	13.5	16.2	29.7	37.8	2.7	100	
	下位群	9.5	14.3	57.1	19.0	0.0	100	
	合計	8.6	13.6	40.7	33.3	3.7	100	
	上位群	0.0	4.3	34.8	52.2	8.7	100	
10 授業の目標が明確になった	中位群	10.8	0.0	35.1	48.6	5.4	100	20.88
	下位群	9.5	23.8	52.4	14.3	0.0	100	
	合計	7.4	7.4	39.5	40.7	4.9	100	
	上位群	0.0	8.7	56.5	34.8	0.0	100	
	中位群	10.8	16.2	54.1	16.2	2.7	100	
11 授業内容への理解が深まった	下位群	14.3	28.6	42.9	14.3	0.0	100	10.1
	合計	8.6	17.3	51.9	21.0	1.2	100	
	上位群	0.0	0.0	21.7	65.2	13.0	100	
	中位群	8.1	2.7	13.5	59.5	16.2	100	
	下位群	14.3	4.8	33.3	42.9	4.8	100	
12 疑問点はすぐに調べるようになった	合計	7.4	2.5	21.0	56.8	12.3	100	8.10
	上位群	0.0	13.0	43.5	39.1	4.3	100	
	中位群	16.2	18.9	54.1	8.1	2.7	100	
	下位群	9.5	33.3	47.6	9.5	0.0	100	
	合計	9.9	21.0	49.4	17.3	2.5	100	
13 授業の振り返りができた	上位群	4.3	8.7	56.5	26.1	4.3	100	13.29
	中位群	13.5	32.4	45.9	8.1	0.0	100	
	下位群	19.0	23.8	52.4	4.8	0.0	100	
	合計	12.3	23.5	50.6	12.3	1.2	100	
	上位群	4.3	4.3	65.2	21.7	4.3	100	
14 授業に対して自分なりの視点を持つようになった	中位群	13.5	13.5	62.2	10.8	0.0	100	16.15
	下位群	23.8	23.8	42.9	9.5	0.0	100	
	合計	13.6	13.6	58.0	13.6	1.2	100	
	上位群	0.0	13.0	39.1	39.1	8.7	100	
	中位群	10.8	18.9	48.6	21.6	0.0	100	
15 予習や復習の他、自主的に学習するようになった	下位群	23.8	23.8	42.9	9.5	0.0	100	14.02
	合計	13.6	17.3	44.4	21.0	3.7	100	
	上位群	4.3	4.3	43.5	39.1	8.7	100	
	中位群	13.5	21.6	48.6	13.5	2.7	100	
	下位群	23.8	23.8	38.1	14.3	0.0	100	
16 体系的に学習できるようになった	合計	13.6	17.3	44.4	21.0	3.7	100	15.85
	上位群	0.0	13.0	39.1	39.1	8.7	100	
	中位群	10.8	18.9	48.6	21.6	0.0	100	
	下位群	23.8	23.8	42.9	9.5	0.0	100	
	合計	11.1	18.5	44.4	23.5	2.5	100	
17 学習が習慣化された	上位群	0.0	13.0	39.1	39.1	8.7	100	14.02
	中位群	10.8	18.9	48.6	21.6	0.0	100	
	下位群	23.8	23.8	42.9	9.5	0.0	100	
	合計	13.6	17.3	44.4	21.0	3.7	100	
	上位群	0.0	13.0	39.1	39.1	8.7	100	
18 学習に対する達成感が得られた	中位群	10.8	18.9	48.6	21.6	0.0	100	15.85
	下位群	23.8	23.8	42.9	9.5	0.0	100	
	合計	11.1	18.5	44.4	23.5	2.5	100	
	上位群	0.0	13.0	39.1	39.1	8.7	100	
	中位群	10.8	18.9	48.6	21.6	0.0	100	
19 学習に対する達成感が得られた	下位群	23.8	23.8	42.9	9.5	0.0	100	14.02
	合計	13.6	17.3	44.4	21.0	3.7	100	
	上位群	0.0	13.0	39.1	39.1	8.7	100	
	中位群	10.8	18.9	48.6	21.6	0.0	100	
	下位群	23.8	23.8	42.9	9.5	0.0	100	

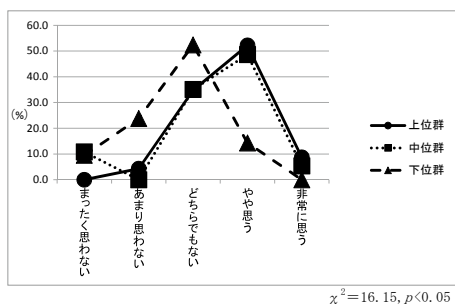


図3. 授業内容への理解が深まった

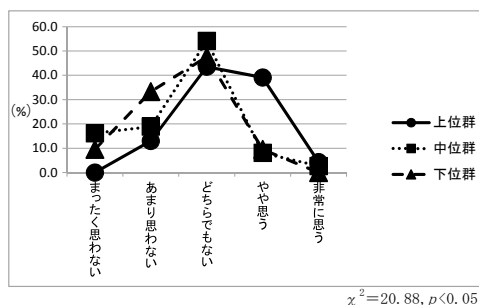


図4. 授業に対して自分なりの視点を持つようになった

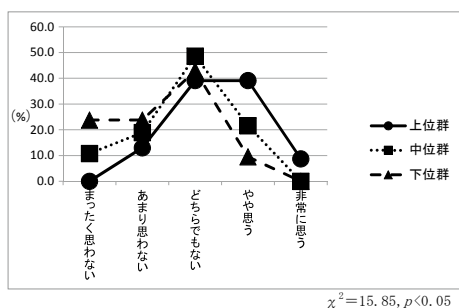


図5. 学修に対する達成感が得られた

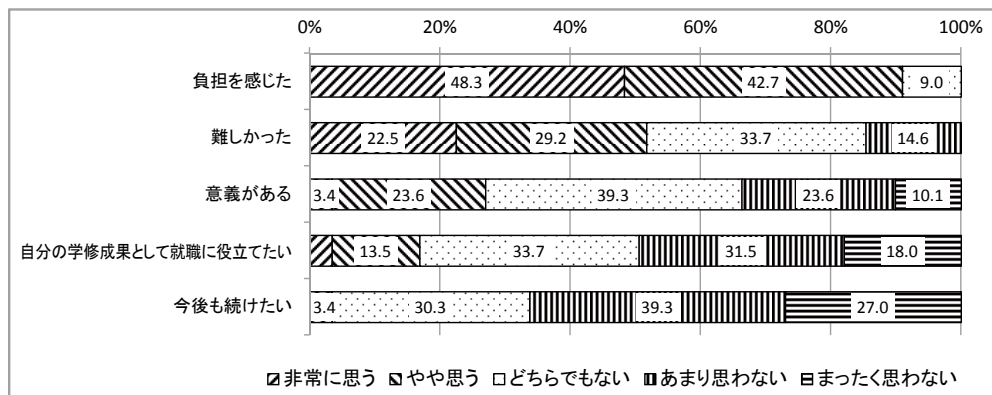


図6. 学習ポートフォリオの記入に対する意識

位群、中位群、上位群の順であった（図5）。授業内容の理解は上位群と中位群が高いが、自分なりの視点を持つといった思考力を高める意識は上位群のみが高かった。

(Ⅳ)学修ポートフォリオの記入に対する意識（図6）では、「負担を感じた」が「非常に思う」と「やや思う」をあわせて90%以上であり、「難しかった」も51.7%と半数を超えていた。負担感や難しさを感じているためか「今後も続けたい」と考えている学生は3.4%と非常に少ないものの、「意義がある」が27.0%であり、負担を感じつつも意義があると考えている学生もみられた。

(Ⅴ)学修ポートフォリオのよかった点に関する自由記述（表9）では、記入者数の比率は上

表9. 学修ポートフォリオのよかった点に関する自由記述

群(人)	上位群 (23人)	中位群(37人)	下位群(21人)	
記入者数 (%)	15人 (65.2%)	20人 (54.1%)	6人 (28.6%)	
文章数	18	22	6	
分類	振り返り	<p>授業の振り返りができた。(3)</p> <p>何を学んだか忘れることがない。(2)</p> <p>授業でやったことを思い出すことができた。</p> <p>何を学んだかを整理することができた。毎時間の内容を整理できるので復習の時に役立つ。</p>	<p>記入することでどのような授業をしたのかがわかって良かった。(5)</p> <p>授業内容を短くまとめて書こうとするので振り返りがしやすかった。(2)</p> <p>テストの時に見返せる。(2)</p> <p>いつ何の授業をやったかを思い出せた。(2)</p> <p>授業の内容を復習できる点。</p> <p>毎回の講義で何をしたら復習をすることで考えること。</p>	<p>前回や前々回の授業の内容を日ごとでも見たら思い出せるから授業内容が入ってきやすい。</p> <p>授業の振り返りをするようになった。</p> <p>その日にどんな講義を受講したか振り返ることができるところ。</p> <p>何を習ったかを思い出す機会になった。</p>
	予習・復習・学習時間	<p>予習・復習を意識するようになった。</p> <p>予習・復習を自主的にできるところ。</p> <p>予習・復習をすることができた。(2)</p> <p>予習復習を行う習慣が少し身についたのでよかった。</p> <p>学習時間が増えた。</p>	<p>予習復習を行うことが増えた。</p> <p>予習復習をやる習慣が身についた。</p>	
	自主性、意欲	<p>後期も継続していきたいです。</p> <p>自主的に勉強に取り組める。</p>	<p>自分がやった予習復習の時間が記録できるから意識が上がった気がする。</p>	
	達成感	<p>やり終えた後の達成感がありました。</p> <p>裏の資料貼り付け欄を活用して自由にメモができたこと。</p>	<p>成績評価に入れてもらえること。(2)</p> <p>字がうまくなった。</p> <p>提出があってみんなできるの絶対やらないといけないので全員できた。</p> <p>ノート代わりに記入できるので、ノートがいらないりました。</p> <p>裏面が真っ白で自由に書き込めるようになっていたところがよかった。</p>	<p>成績に含まれるところ。</p> <p>授業プリントをなくさないようになった。</p>
	その他			

※文末の () は同じ回答の人数を示す。

表10. 学修ポートフォリオの負担感、難しかった点及び改善点に関する自由記述

群(人)	上位群 (23人)	中位群(37人)	下位群(21人)	
記入者数 (%)	19人 (82.6%)	28人 (75.7%)	11人 (52.4%)	
文章数	26	37	18	
分類	目的、意義	<p>自分で予習復習など勉強に取り組めるのでいちいち記録してもいいかなと思いました。</p> <p>予習90分、復習90分を設定している理由がわからない。自主的に学習するなら、その部分も含めて自分で考えればいいと思う。</p>	<p>面倒。意味がない。(2)</p> <p>使用してもなくてもあまり変わらないと思う。</p> <p>やってもやらなくても変わらないと思う。</p>	<p>時間がとられるだけだと思った。だったら自分の就職時に役立つ資格の勉強に時間をあてたいと思いました。</p> <p>予習と復習を記述しなければならぬところ。人それぞれやり方はあると思うのでわざわざ記述する必要はないと思う。</p> <p>わざわざ書く意味を感じない。</p> <p>時間の無駄であると思う。</p> <p>表紙に書く項目(名前、科目)はわざわざ毎回書くなくてもいいと思う。(4)</p>
	記入方法・内容	<p>毎回名前や授業名を書かなければならないところ。毎回書くのは日付と授業テーマのみでよいと思った。</p> <p>毎回学部、学科、学籍番号、氏名、授業科目、分野を記入するのは必要ないと思った。</p>	<p>書き方がわからない。(3)</p> <p>予習した」とか「ノートを見た」とか決まったことを毎回書くしかない書き方がわからない。</p> <p>何教科も書くのは疲れた。1ページごとに名前と学科名等を書かなくてはいけなかったのでその記入欄は日付や授業テーマだけがいいと思います。</p>	
	記入時間	<p>予習、復習のところに～分やったと書くのか、やった内容を書くのかわからなかった。</p> <p>授業によっては予習するところがわからない部分があったので、やりにくかったです。</p> <p>何を書けばよいかわからない。</p>	<p>書く面と資料を貼るところが1枚になっているので、何度もめくったりして見にくかった。</p> <p>15回全部すると枚数が足りないのでは余分がほしい。</p> <p>見開きにしてほしい。</p> <p>いちいち名前とか書くのが面倒だった。</p> <p>欠席すると書けない。教科によってかたよる。</p> <p>講義科目が多いため時間がかかって負担になる。</p> <p>予習・復習を何をすればいいかわからない科目があり、その科目について書くのは大変だった。</p> <p>書く時間が長い時、ためてしまったりすると非常に大変だった。</p> <p>書く時間がない。</p>	<p>大きいのでばんの中折れるが、A4の紙は貼れない。途半端な大きさ。欄が大抵の分で飽む。B5サイズならいい。(2)</p> <p>最後のまとめのみでよいと思う。(毎回だと負担)</p> <p>「質問したこと」は別にいらぬと思う。</p> <p>書き方がいまいちよくわからなかった。</p> <p>授業がいっぱいあっておいつかなくてすごく大変だった。</p>
	予習と復習学習方法	<p>1日に何冊も書かなければいけないので大変だった。</p> <p>勉強したくてもPFを書かなきゃという気持ちがある負担が大きかったです。</p> <p>毎回の記入に時間がかかる。最後の反省のところ。</p> <p>時間がなくなるときは書けない。時間がなくなると書いてしまう。</p>	<p>毎日辛い。</p> <p>ちょっと面倒くさい。</p> <p>履修科目が多い分、何冊も書かないといけないので面倒くさい。</p>	
	その他	<p>毎日の内容を書くのが大変でした。</p> <p>予習で何をしたいかわからないときがあった。</p> <p>予習する量わからない。</p> <p>予習復習の時間がなかなかたれなかった。</p>	<p>予習を何していいかわからない。</p> <p>シラバスの内容と講義内容にズレがあると予習で何を行えばいいかわからなかった。</p> <p>毎時間の予習、復習が難しかった。時間的に、予習復習が90分も満たせないことが多かった。</p> <p>絶対に90分の予習復習は無理。</p> <p>90分の講義に対して90分の予習、90分の復習をすることは難しく感じます。</p>	

位群（65.2%）、中位群（54.1%）、下位群（28.6%）の順に低下した。記入した内容は、いずれの群も「授業の振り返りができた」が最も多かった。予習と復習、学習時間に関する記述数は上位群が多く、下位群では全くみられなかった。学生は学修ポートフォリオの記入を授業の振り返りができることとして一定の成果を認めているものの、特に下位群は予習と復習あるいは学習時間を確保しようとする意識までには至っていないことが確認された。

一方、負担感、難しかった点および改善点の自由記述（表10）は、半数以上の学生からあった。その比率は上位群（82.6%）、中位群（75.7%）、下位群（52.4%）の順であり、よかった点の自由記述（表9）と同じであった。内容では、目的・意識においていずれの群にも「いちいち記録する必要がない」「意味がない」などのポートフォリオを導入した目的を理解できていない記述がみられた。記入方法では、名前や授業名などの項目や書式への改善を求める意見が多かった。記入時間は、上位群と中位群では負担を感じている記述があったが下位群にはなかった。予習と復習、学習時間においても、上位群と中位群には「何をしてよいかわからない」「90分の予習・復習は難しい」などの意見があったが、下位群にはみられなかった。すべての群に学修ポートフォリオの目的や記入方法に対する意見がみられ、特に上位群・中位群からは記入時間や予習と復習、学習時間に関する記述もあったことから、積極的に取り組む姿勢の学生ほど学修の質の高さを求めて疑問点を持つことが示された。

4. 考 察

学修ポートフォリオの記入状況、予習と復習の達成度、学修に対する意識について調査した結果から、学生の学修に対する問題点と今後の課題を検討する。

80%以上の学生は学修ポートフォリオの平均記入時間が20分未満であり、約半数がその日のうちに記入していることから、記入への意識付けはおおむねなされていると考えられた。1日の平均的な予習と復習の時間はいずれも60分未満が80%以上であり、双方は正の強い相関（ $r=0.846, p<0.01$ ）を示したことから、予習と復習時間は共に高まるといえる。また、それらの時間は学修ポートフォリオを導入していない3年生の平均学習時間⁹⁾と差がほとんどなかったことから、学修ポートフォリオの記入がそのまま学生全体の予習と復習の時間を確保する手段にはならないと考えられた。そこで、その記入状況の上位群、中位群、下位群別に予習と復習時間を分析した。上位群は1日の平均的な学習時間の割合が予習と復習時間のどちらも60～90分と最も多く、次いで中位群、下位群の順に少なくなった。逆に30分未満は下位群が多く、中位群、上位群の順であった。上位群は予習と復習時間がある程度確保されている実状からみても、学修ポートフォリオの導入は効果があったと考えられる。一方、中位群や下位群では学習時間が少ないことから、それらの時間を確保するために何らかの手立てを考える必要がある。その一つとして、半数以上が予習や復習を個人で大学以外の場所で行っている現在の状況を、例えば教員がグループやペアで行う課題を与え、大学内で協働（協調）学習（colaborative learning）ができるように仕掛ける提案ができる。協働（協調）学習は、個人学習よりも学習効果が高いこと、動機付けやコミュニケーション能力、相互調整能力に効果があるといわれている。そのため、本学の学生においても上位群が中位群や下位群の意欲を喚起し学習時間の確保につながり学習習慣を身に付ける手立てとなり得るのではないかと考えられる。

次に、学修に対する意識では授業の振り返りができ授業内容の理解が深まり、学生一人ひと

りの授業内容への興味・関心、受講意欲が高まった点で、学修ポートフォリオの導入は効果があったといえる。なかでも、上位群は18項目のすべてに意識が高く、特に「授業内容への理解が深まった」「授業に対して自分なりの視点を持つようになった」「学修に対する達成感が得られた」の3項目には有意差を示した。ポートフォリオを記入することで授業を振り返り、授業内容の理解が深まり思考力が高まったと考えられる。中位群は、授業内容への理解が深まった点では上位群と同じであるが、思考力の高まりは低いことからみても、授業を振り返り疑問点を見つけてそれを解決していくという思考のプロセスまでには至らなかったと推察された。そのことは、中位群では「90分間の予習・復習は難しい」との自由記述が多いことから、予習と復習をしなければならない意識はあるが、授業への振り返りが十分でないため、それらの方法がわからず時間も確保できなかったと推察できる。

学修ポートフォリオの導入に関しては、「学修ポートフォリオに対する理解の促進に向けて(中間まとめ)」¹⁰⁾において、学生・教職員・大学組織における問題点が挙げられている。特に学生の問題点として、①ポートフォリオの意義・目的及びメリットが理解されていない、②効果的な学修方法を身につけようとしめない、③学修状況の書き込みを継続しないの3点があげられている。本調査結果からも、「意味がない」「無駄である」との記述がみられたことから、学生自身がポートフォリオの意義・目的およびメリットを十分理解していなかったと考えられる。そこで、教員は、学生への理解を促すために活用面も繰り返し説明する必要がある。例えば、学修ポートフォリオを授業用のノートではなく学修記録であること、予習と復習で利用した資料を余白に貼付すること、授業中に配布された資料(プリント類)あるいはルーズリーフに綴られたノート類を貼付してもよいなどである。

試験的に導入した学修ポートフォリオの効果は、学修を振り返る手立てになったことであるが、90%以上の学生は記入に負担感を感じている。それは、しっかり予習や復習をした上でその記録をきちんと書き留めなければならない負担感と予習や復習をほとんどしていないため書く内容が薄く義務感からくる負担感であると考えられる。特に下位群は、後者の負担感から予習や復習時間を増やす手立てにならなかったと考えられる。「予習、復習で何をしたらいいかわからない」「予習、復習の仕方がわからない」という記述からみても、具体的に予習と復習の方法を示す支援が必要である。学修ポートフォリオの記入は、1年次に大学での学び、すなわち高等学校までの予習と復習の考え方や方法とは異なり学びを深めるために行うものだと理解させることが重要である。本学では、次年度から必修科目として「初年次セミナー」(初年次教育)を導入する。この科目が、それらの課題を解決できるように授業内容を考えていく必要がある。

本調査結果から明らかとなった問題点は、下位群の学生がそもそもの学習方法を理解していなかったことから学習方法が変わる、自主学习時間が増えるなどの効果がみられなかったことである。継続して実施するためには、教員は学修ポートフォリオの意義やメリットを理解させること、予習と復習時間の確保と大学で学修できるような手立てを考えることが課題である。いずれにしても、学修ポートフォリオの導入は、今後の学修の方向性が示されたこと、授業の振り返りと授業の理解を促す手立てとなったことにおいて成果が示されたといえる。本研究の限界は、学修ポートフォリオを記入した科目とその成績結果との相関まで調査されていないため、学修の客観的な項目から追究できなかったことである。

5. 要 約

本研究では、学修ポートフォリオの記入から学生の予習と復習に対する達成度、学修に対する意識について調査し、その問題点を明らかにすることで今後の課題を整理した。

(1) 学修ポートフォリオを記入することは、学生が授業に対する振り返りや授業の内容を理解できた点で有効であった。なかでも、記入がしっかりとなされている学生(上位群)は、思考力が高まり質の高い学修につながり、達成感も得られたことが確認された。

(2) 学修ポートフォリオ導入の問題点は、その意義・目的及びメリットを学生が十分理解していなかったこと、大学における予習と復習の方法がわからなかったことからくる負担感である。

今後の課題は、学生自身の学修のために学修ポートフォリオをより効果的に活用する方策を考え、実践することである。

参考文献・引用文献

- 1) 濱名篤、初年次教育の必要性と可能性、大学と学生、54号 P 6-15、(2008)
- 2) 白井靖敏、学生の学修行動に関する間接評価、名古屋女子大学紀要第61号 P 143-152、(2015)
- 3) 白井靖敏、大島光代、大嶽さと子、神崎奈奈、嶋口裕基、遠山佳治、羽澄直子、原田妙子、富士栄登美子、幸順子、大学における効果的な授業法の研究6～学生の予習・復習等の勉強時間に関する一考察～、名古屋女子大学総合科学研究第9号 P 1-6、(2015)
- 4) 中央教育審議会答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」(2012)
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1325047.htm、2016.8.10
- 5) 大学改革実行プラン (2012)
http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/24/06/1321798.htm、2016.8.10
- 6) 大学情報システム研究委員会、学修ポートフォリオに対する理解の促進に向けて(中間まとめ)、(2013)
- 7) 高橋哲也、星野聡孝、溝上慎一、学生調査とeポートフォリオならびに成績情報の分析について、京都大学高等教育研究第20号 P 1-16、(2014)
- 8) 森敏昭、吉田寿夫、心理学のためのデータ解析テクニカルブック、吉田書房、220、(1990)
- 9) 前掲3)
- 10) 前掲6)

参考資料1：学修ポートフォリオ



表紙

年度 履修用 ポートフォリオ	
履修年度:	月 日 ()
所属学部:	学年 学号番号: 氏名:
履修科目名:	履修単位数:
履修分野: 文・食・住・経済経営・情報・その他(国語, 英語など)	
学習(履修した学キーストなども記入)	
(学修)学習時間 分	
履修内容(履修した学キーストなども記入)	
学習(履修した学キーストなども記入)	
(学修)学習時間 分	
履修中に履修した内容	
今日の履修の達成度(該当番号に○をつける)	
①達成できた	
②やや達成できた	
③やや達成できなかった	
④達成できなかった	
[自由記述]	

シート

参考資料2：アンケート調査用紙

I. 「学修ポートフォリオ」の記入

1 現在記入している「学修ポートフォリオ」の科目数
 1. 1科目 2. 2科目 3. 3科目 4. 4科目 5. 5科目 6. 6科目 7. 7科目
 8. 8科目 9. 9科目 10. 10科目 11. 11科目以上

2 「学修ポートフォリオ」はいつ頃記入しましたか。(最も回数が多い場合で答えてください)
 1. 授業直後 2. その日のうちに 3. 次の日～講義のある2日前まで 4. 講義のある前日
 5. 講義の前日 6. その他()

3 「学修ポートフォリオ」はどこで記入しましたか。(最も回数が多い場合で答えてください)
 1. おもに大学 2. おもに自宅・アパート・寮 3. 大学と自宅・アパート・寮の半々
 4. おもに学校・自宅・アパート・寮以外()

4 「学修ポートフォリオ」の平均的な記入時間はどのくらいですか。(最も回数が多い場合で答えてください)
 1. 5分未満 2. 5分～10分未満 3. 10分～15分未満 4. 15分～20分未満
 5. 20分～25分未満 6. 25分～30分未満 7. 30分以上

II. 学習・復習

5 1日の平均的な学習時間はどのくらいですか。
 1. 30分未満 2. 30分～40分未満 3. 40分～50分未満 4. 50分～60分未満
 5. 60分～70分未満 6. その他()

6 1日の平均的な復習時間はどのくらいですか。
 1. 30分未満 2. 30分～40分未満 3. 40分～50分未満
 4. 50分～60分未満 5. 60分以上 6. その他()

7 学習はどこで行いましたか。(最も回数が多い場合で答えてください)
 1. おもに大学 2. おもに自宅・アパート・寮 3. 大学と自宅・アパート・寮の半々
 4. おもに学校・自宅・アパート・寮以外()

8 復習はどこで行いましたか。(最も回数が多い場合で答えてください)
 1. おもに大学 2. おもに自宅・アパート・寮 3. 大学と自宅・アパート・寮の半々
 4. おもに学校・自宅・アパート・寮以外()

9 学習は個人やグループで行いましたか。(最も回数が多い場合で答えてください)
 1. おもに個人 2. おもに友人と共同 3. その他()

10 復習は個人やグループで行いましたか。(最も回数が多い場合で答えてください)
 1. おもに個人 2. おもに友人と共同 3. その他()

11 学習をするために使用した媒体はなんですか。
 1. おもに教科書・ノート 2. おもに図書館の本 3. おもにパソコンや携帯・スマホ
 4. おもに雑誌 5. おもに友人や周囲の人などへの聞き取り
 6. その他()

12 復習をするために使用した媒体はなんですか。
 1. おもに教科書・ノート 2. おもに図書館の本 3. おもにパソコンや携帯・スマホ
 4. おもに雑誌 5. おもに友人や周囲の人などへの聞き取り
 6. その他()

III. 学修に対する意識

「学修ポートフォリオ」を記入することについて、該当の項目の番号を○で囲んで下さい。

項目	非常に思	やや思	どちらか	あまり思	まったく思
1 学習意欲が向上した	5	4	3	2	1
2 学習時間が増えた	5	4	3	2	1
3 復習時間が増えた	5	4	3	2	1
4 学習方法が変わった(効果が高くなった, 改善した)	5	4	3	2	1
5 学習内容が変わった(面白くなった, 改善した)	5	4	3	2	1
6 学習方法が変わった(効果が高くなった, 改善した)	5	4	3	2	1
7 復習内容が変わった(面白くなった, 改善した)	5	4	3	2	1
8 授業内容に興味・関心が高まった	5	4	3	2	1
9 授業への受講意欲(学習意欲)が向上した	5	4	3	2	1
10 授業の目標が明確になった	5	4	3	2	1
11 授業内容への理解が高まった	5	4	3	2	1
12 疑問点はすぐに解るようになった	5	4	3	2	1
13 授業の振り返りができた	5	4	3	2	1
14 授業に対して自分の視点を持つようになった	5	4	3	2	1
15 主体的に学習できるようになった	5	4	3	2	1
16 体系的に学習できるようになった	5	4	3	2	1
17 学習が習慣化された	5	4	3	2	1
18 学習に対する達成感が増えた	5	4	3	2	1

IV. 「学修ポートフォリオ」の記入に対する意識

項目	非常に思	やや思	どちらか	あまり思	まったく思
19 負担を感じた	5	4	3	2	1
20 難しかった	5	4	3	2	1
21 意義がある	5	4	3	2	1
22 今後続けたい	5	4	3	2	1
23 自分の学習成果として意識に定着した	5	4	3	2	1

注記)「学修ポートフォリオ」は、履修した科目(履修科目)の内容を含むだけでなく、履修した科目に関する事項にも活用しています。
 「履修」は、単に履修科目について記入しなくても構いません。科目に関係なく記入することをお勧めします。

V. 自由記述

「学修ポートフォリオ」の記入に関して、よかったところを具体的にあげて下さい。

「学修ポートフォリオ」の記入に関して、改善を願ったところを具体的にあげて下さい。また、それらに対する改善点も記入して下さい。

記入欄が不足する場合は、裏面を使ってください。 ご協力ありがとうございました。